

2018-01-10(水)

ダウンコートをリサイクルに出す

15年以上着たダウンコートが壊れて買い替えた。ダウンをリサイクル出来ることは知っていたけど、古いコートを初めてリサイクルにしてみた。

そろそろ買い替えかなあと思っていたダウンコートのチャックが壊れた。修理サービスもあるけど、問い合わせた店では2~3週間かかると言われた。その間着られないのは不便だ。冬のコートは3着あれば良い。でもその3着のうち2着の色が同じなので、他の2着とは違う色のダウンコートが欲しかった。

買いに行く前に[グリーン ダウン プロジェクトの HP](#)でダウンコートを回収してくれる場所を調べた。コートメーカーやリサイクル運動市民の会などいくつかあったけど、[URBAN RESEARCH DOORS の HP](#)での説明が解りやすかったし、行きやすい場所に店があった。デパートの冬物セールでコートを買い、その足で古いコートをリサイクルに持って行った。

ダウンはガチョウやアヒルなど水鳥の胸から腹部にある柔らかい羽毛のこと。食用に飼育されている鳥から副産物として取れる分は良いが、ライブハンドプラッキングと言って生きた鳥から手でむしり取る方法で製造されている物もある。羽毛は洗浄し、精製加工することで再生可能な資源だという。URBAN RESEARCH DOORS のレジカウンターにダウンコートを持って行ったら、コートのダウン含有率を確認後、引き取ってくれた。

色やデザインが気に入ったダウンコートを買った。リサイクルダウン「グリーンダウン」のタグが付いてるコートは、店で見たコートの中にはなかった。また、動物愛護の[アニマルライツセンターは、防寒具の素材として動物性ではない「シンサレート」や「プリマロフト」などのハイテク素材を紹介している](#)。調べれば確かにそれらを使ったコートも売ってはいるが、販売数が普通のダウンと比べて圧倒的に少ない。



イラスト:[イラスト AC](#)

著者: minima
アラフォー女子。グリーンコンシューマー東京ネット会員。この連載をまとめた電子書籍「[エコな買物がしたい](#)」がAmazonにて販売中。